

## 令和 5 年度 実務実習教科担当教員会議 議事録

1. 開催日時：令和 6 年 3 月 16 日（土）10:00～11:50

2. 開催様式：オンライン会議（Zoom を使用）

3. 出席者：206 名

4. 本会議

（1）開会の挨拶 北陸大学 石川和宏

（2）「第 108 回 薬剤師国家試験問題検討委員会報告」（配付資料）

報告者 城西大学薬学部 大嶋 繁 先生

（3）特別講演「新しい薬学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した実務実習ガイドライン改訂の概要」（配付資料）

演者 名古屋市立大学大学院薬学研究科 鈴木 匡 先生

（4）次回開催案内・閉会挨拶 北陸大学 石川和宏

5. 会議報告

（1）開会の挨拶

本年度の委員長である石川和宏（北陸大学）より開会の挨拶にて、年明け早々に発生した能登半島地震において、全国から多くの医療チームや大学教員によるご支援をいただいたことに全国から参加されてみえる先生方に御礼の言葉が述べられた。また、今後の開催様式については、委員の先生を対象に今回実施したアンケートの結果を後ほど報告する旨が伝えられた。

（2）「第 108 回 薬剤師国家試験問題検討委員会報告」

城西大学薬学部の大嶋先生より、2023 年 5 月 13 日（土）にオンライン会議として開催された第 108 回 薬剤師国家試験問題検討委員会にて各大学から出された意見を踏まえて議論された内容が紹介された。全体として概ね臨床での問題解決能力をはかる良問が出題されていることが確認された。一方で、解答に必要な情報の不足、症例の検査値が不適切であったため問題の本質と異なったところで受験者を困惑させる問題があったことや、正答は得られるが実施には存在しない剤形がある等、実務実習を経験した受験生に不信感を与えてしまった問題の存在を指摘する意見も出された。最後に、ガイドラインにあるが適応外使用であるとか、添付文書にあるが稀なケースなども出題されていたことから、勉強しなければならない範囲の広がり懸念されたことから、全ての問題が薬剤師の資格試験として適切なものなることを要望することとしたことが報告された。すでに第 109 回が終了している現時点において、第 108 回の出題内容も踏まえて今後開催される検討委員会にて第 109 回についての議論がより深まることが期待されるとのことであった。

（3）特別講演「新しい薬学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した実務実習ガイドライン改訂の概要」

今年度は直前に薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）対応の「臨床における実務実習に関するガイドライン」が策定されたことから、本会議の委員の先生方の関心の高さを考慮

し特別講演として本内容に一本化して2演題分の時間を割いて実施された。本ガイドラインの作成にあたり、各大学には現在の実施状況に関するアンケート調査が実施され、その解答結果を踏まえた上で策定に至っている。次は本ガイドラインに準じた実際の教育を如何に実施していくかということが目標となるが、今回ここにフォーカスして作成に携われた鈴木先生より把握すべき多くの重要なポイントについて大変分かりやすくご説明いただいた。先生の臨床教育にかける熱い思いも相まって非常に活気ある雰囲気の中での講演であった。最大のポイントとしては、そのあり方として「F 臨床薬学」の「患者個別の薬物療法」を中心とした学修を「実務実習」でも効果的に進めるための学部教育である「3つのフェーズ」を設定し、目標として十分な薬物治療の個別最適化の学修経験を積むことができるようにすることで、「患者・生活者を担当する」実習の推進を図ることにあることが示された。従来の参加体験型からより個別最適実践型に大きく進化したものとなっていることが確認された。また、学内外の臨床教育において個別化に重きを置くことでそのセンスを鋭く磨くことがこの改訂版の一番の特色であることが繰り返し強調されていたことで、参加の先生方へもその旨はしっかりと周知された。今後各地区の調整機構も交えてこのガイドラインに準じた詰めの協議を学内にて活発化・加速化させていく必要性をおそらく参加の先生方は強く認識されたことと思われた。

#### (4) 次年度以降の開催について

アンケートの回答結果から、開催様式としては9割近い委員の先生よりオンラインを支持する旨のご意見をいただいたことから、次年度以降も今回の様式を継続していくこととした。なお、必要に応じて対面の良さを活かした開催も視野には入れていきたい旨が説明された。

次年度開催予定：日本薬学会第145年会の開催様式を踏まえ決定する予定。

次年度委員長：北陸大学 石川和宏

次年度副委員長：名城大学 野田幸裕

#### (5) 閉会の挨拶 北陸大学 石川和宏

以上